

大阪日々新聞

二百七十八号



鞆邊某の妻でらち入連て住吉詣んと
時とて夜ちけだ賊
どちかおされてさけ申め
ひそむ女悲泣すれども
外今女をいひさす
ひそむ女も行くさか
ひそむ女も下帯かき惠
ひそむ女も直内うらま
引すて一車の
ひそむ女も与るゆ
女是を得て去ル
処へ又一人ぞ来る
今女をさかてあす

あつて一車と云はるるは丸圓を
おいて置り衣を奪ふも金を失ふ
そ有婦人を追ふんと二人のそくを
行ゆふ
でらちの車の内の衣ふくをさかす
飛が如く家へ返り主のついで
兩賊の云一車をいへかのやち
そくを丸圓の金札あり夜の明
まらして許へかかむの計ひ神妙
なりとて賊金いでち賜るなる
項へ成つ二月五日トゴ

柳櫻記

女

川傳 彫福

版元池田傳兵衛

